学校番号	１０８

令和２年度　芸術（音楽）

教科	芸術	科目	音楽Ⅰ	単位数	２単位	学年	１年
使用教科書	ON！１（音楽之友社）						
副教材等	なし						

1.担当者からのメッセージ（学習方法等）

・「歌唱」「器楽」「創作」「鑑賞」の 4 つの分野について学習します。
　各学期（１回以上）、実技発表をソロ又はグループで実施します。
・学習の到達度は、授業での実技テストやワークシートで評価します。
・音楽が生涯にわたって心の支えとなり、皆さんの生きる力になることを願っています。

2.学習の到達目標

音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、 感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。

3.学習評価（評価規準と評価方法）

観点	a:音楽への関心・意欲・態度	b:音楽表現の創意工夫	c:音楽表現の技能	d:鑑賞の能力
観点の趣旨	音楽や音楽文化に関心を持ち、歌唱・器 楽・創作・鑑賞の学習 に主体的に取り組もうとする。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、歌唱・器楽・創作の音楽表現を工夫し、どのように歌うか、演奏するか、音楽をつくるかについて表現意図を持っている。	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な、歌唱・器楽・創作の技能を身につけ、創造的に表している。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。
評価方法	観察	観察 演奏の聴取	演奏の聴取 提出作品	観察 ワークシート 感想文

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4. 学習の活動

学期	題材名	学習内容	主な評価の観点				題材の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	曲の持つイメージに合う発声で	【歌唱】 日本語曲(翼をください・少年時代等) 英語曲(A whole New Worid 等)	○	○	○	○	a:「歌う事が楽しい」というような喜びを感じながら、生徒自身のイメージをもって歌うようしている。 b:旋律を形づくっている要素を知り、それらが、どう関連しているかを感覚的に掴む。歌唱では、歌詞との関わりにも目を向けどのように歌う。 c:表現したいことを伝えるための歌唱の技能を身に付けている。 d:ちょっとした表現の良さや更に、こうすればというものを感じながら他生徒の歌を聴く。	観察 ワークシート 演奏の聴取
	親しみやすい曲を弾く	【器楽】 ギター	○	○	○		a:TAB 譜をとりいれ短い親しみやすい曲でギターの基礎を身につける。 b:メロディーのとらえ方でどう音楽が変わるか感じる。 c:音楽の本質である「表現したいことを伝える」ためのポイントを発見する。	観察 演奏の聴取
		【創作】		○	○		b:短いモチーフを基に自分でギター演奏できる曲を創る。 c:表現に必要なアーティキュレーションと音質を習得する。	観察 楽譜 演奏の聴取
	～音楽を感じる力をつける～	【鑑賞】 「ボレロ」	○			○	a:主に管弦楽で扱われる楽器の音色や旋律・リズムの特徴と表現上の効果との関わりに関心をもち、能動的鑑賞に主体的に取り組もうとする。 d:音楽の基本と展開を理解しそれらが生み出す表情や雰囲気などを感受しながらその役割を捉え、曲の持つよさや美しさを味わって聴いている。	観察 ワークシート
2学期	英語のリズム感を生かして表現する	【歌唱】 ミュージカル曲 「踊り明かそう」等	○	○	○		a:主に英語曲の発音とメロディーとが表す場面や心情、曲の意味するものをとらえ、イメージを明確に持って歌おうとしている。 b:リズムと流れ、強弱の関連性を楽譜で読み取りイメージ化し、曲の持つ「音楽」を自分のものとして歌う。 c:自らの感性に沿った音楽作りにマッチするよう発声、英語の発音、呼吸法、読譜などの技能を身に付ける。	観察 ワークシート 演奏の聴取

2学期	篠笛に挑戦！	【器楽】 篠笛 練習課題 さくらさくら	○	○	○		a:篠笛の日本音楽における「役割」を知った上で求められる「息」と「音色」で演奏する。 b:西洋の横笛との本質的違いを掴み篠笛本来の音色やフレーズ感を具現化する。 c:篠笛の音色や奏法の特徴を生かした技能を身に付け、創造的に表する。	観察 演奏の聴取
	日本の曲を聴く	【鑑賞】 主に童謡を聴きく	○			○	a:日本で古くから歌われている童謡や伝統音楽それぞれの特徴に関心をもち、その良さを感じとる。 d:西洋音楽に比べ構造的に単純でありながら趣を秘めている音楽を形づくっている事を知覚、感受しながら、延々つながっている日本音楽の良さを感性で掴み、それらの価値を自分のものとして捉えられるよう味わって聴いている。	観察 ワークシート
	篠笛に合ったメロディーを創る	【創作】	○	○	○		a:横笛に適した音楽の流れにイメージを閃かせる。 b:西洋楽器に比べ音域の限られる篠笛にどうすればその良さを引き出す表現が可能な音楽をつくれるかを念頭に置く。 c:楽譜は、便宜上五線譜で記し出来るだけ幹音で演奏できるものを創作する事でより互いの曲を演奏し易くする。	観察 ワークシート 演奏の聴取
	グループワーク	3重唱 「Do Re Mi」	○	○	○		a:グループで動きながら重唱するが、その過程でどう動くかグループメンバー全員で考えていく。 b:曲のニュアンスを歌唱だけでなく体の表現として表す。 c:どういう動きを用いれば自らを十分表現出来るか、試行錯誤しながら歌に合わせて動き、動きと共に表現する。	観察 ワークシート 演奏の聴取
3学期	リコーダーの重奏	2重奏 「カントリーロード」	○	○	○		a:合唱で歌った「カントリーロード」を2重奏用に編曲したものを演奏する事で分かりやすく親しみ易く練習できる。 b:アーティキュレーションの重要さを認識する。 c:表現に必要なアーティキュレーションと替え指を習得する。	観察 ワークシート
	日本の曲を歌う	【歌唱】 「浜辺の歌」 等	○	○	○		a:現代では使われていない言葉の言い回しを理解する事で面白さを感じる。 b:拍子で、最も音楽が流れる拍子の「浜辺の歌」で押しては引く自然の躍動を感じる。 c:音楽の流れに合った息の使いかを会得する。	観察 ワークシート 演奏の聴取

※　表中の観点について　a:音楽への関心・意欲・態度　　b:音楽表現の創意工夫
　　c:音楽表現の技能　　d:鑑賞の能力

※　原則として、「歌唱」「器楽」「創作」の分野は a,b,c の３観点で、「鑑賞」の分野は a,d の２観点で評価をする。
※　尚、各学期の授業時数を考慮し行う項目を限定する必要がある。
※　年間を通じて全ての観点について評価することとなるが、学習内容（題材）の各項目において重点的に評価を行なう。